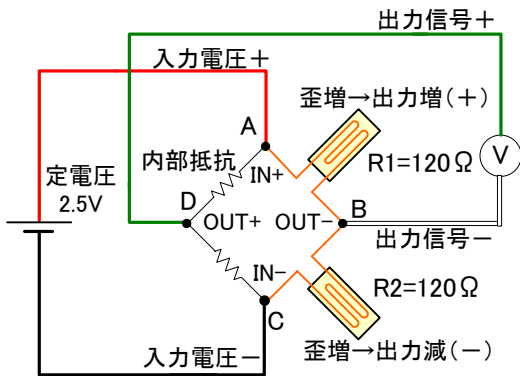
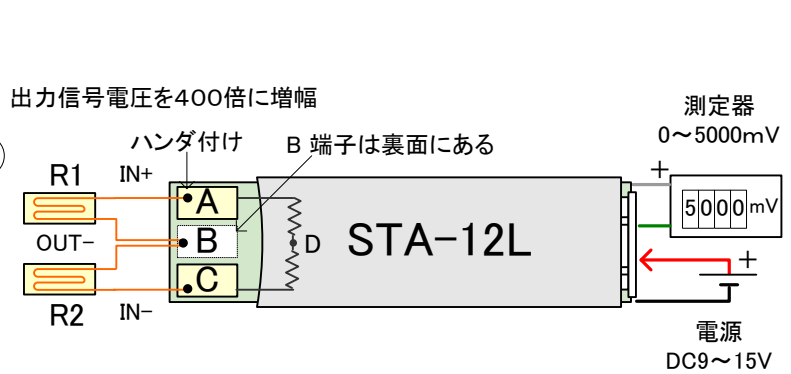


# ○ 2ゲージ法のひずみゲージブリッジ結線方法

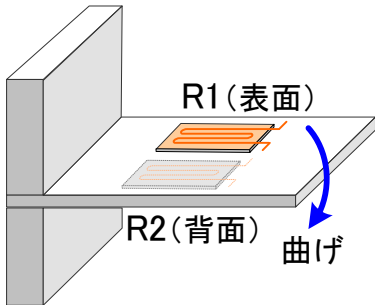
【2ゲージの結線】



【実際の結線:2ゲージ120Ω 3線式】

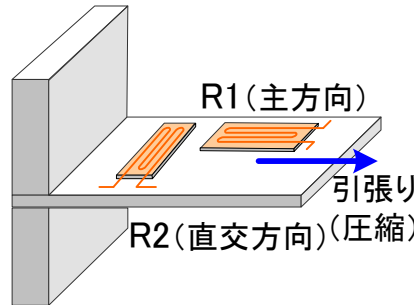


① 2アクティブゲージ法  
(表裏配置、曲げ測定)



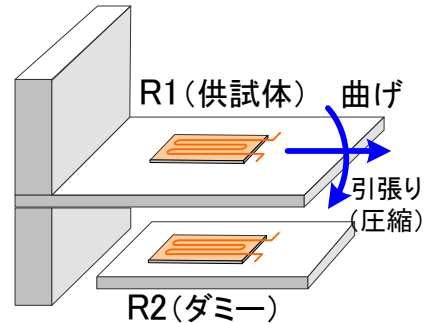
温度影響と引張成分を除去し、曲げ成分を測定。  
ひずみのアンプ出力は、  
実際のひずみの2倍。

② 2アクティブゲージ法  
(直行配置、伸び測定)



温度影響を低減し1軸応力を測定。アンプ出力は  
実ひずみの $(1+\nu)$ 倍。  
 $\nu$ :ポアソン比  
(鋼材で0.28~0.3)

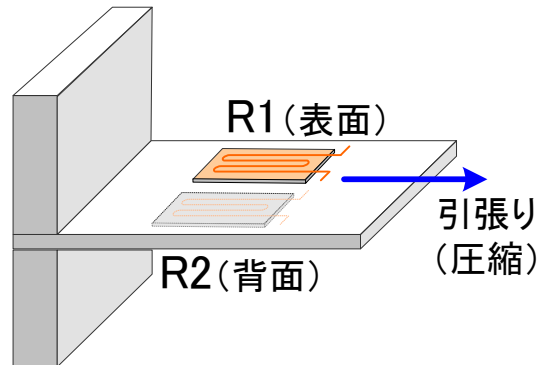
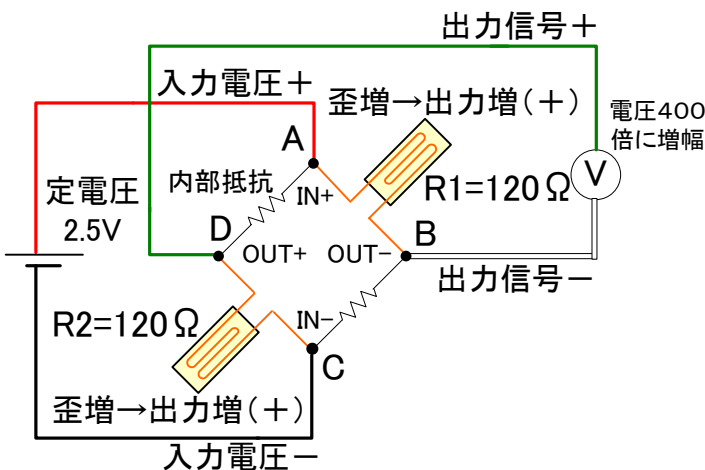
③ 1アクティブ+  
1ダミーゲージ法



温度影響を低減し引張・圧縮や曲げひずみを測定。  
ひずみの出力は、実際の  
ひずみと同じ(1倍)。

## ✗ 使用できないブリッジ結線—対辺2アクティブゲージ法

STA-12シリーズは、ゲージをブリッジ対角線上に配置する「対辺2ゲージ法」は使えません。



曲げ成分を除去し引張・圧縮成分を測定。(ひずみの出力は実際の2倍になる)